

技術日本語表現技法 (Technical Writing)

理科系の作文の五つの心得

心得1:内容の精選

必要なことはもれなく、不要なことは一つも書かない。

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization によるオリジナル研究論文に対して要求している条件

原著論文は、その分野の専門の研究者が読めば、論文の中に与えてある条件だけにもとづいて、

(1) 著者の実験を追試して、著者の示した実験誤差の範囲内で、同じ結果に到達することができるように、

(2) 著者の観察、計算または演繹をくりかえして著者の発見の当否を判定できるように、書かなければならない。

心得2: 事実の意見の区別

明確に区別しないと論理的な組み立てはできない。

例えば、

「私は、この実験によって得られた結論は普遍性を持つと考える。」: 著者の意見

「この実験によって得られた結論は普遍性を持つと考えられる。」: 意見か事実か不明

心得3: 論理的で自然な記述順序

論理的な記述順序を守る: 文と文のつながりがきちんとして、その流れをたどれば自然と結論に導かれるように書く。

読み手の立場で情報を並べる: 機器類の使用説明書の良否は、その機器を始めて使う人が自然と利用法が会得できるかどうかで決まる。

心得4: 明快・簡潔な文書

- (1) 一義的に読める文書であること。
- (2) ぼかした表現をしない。
- (3) できるだけ普通の用語を使う。
- (4) できるだけ短い文により構成する。

不要な言葉を一語でも削ろうと努力するうちに、言いたいことが明確になってゆく。(ウィンストン・チャーチル)

心得5:感想やわらかさの排除

- 心情的な要素は一切含んではならない。
- やわらかさは、政治的な配慮に通じる。
- 人の心を打つような美しい、あるいは感動的な文書を書く必要はない。